

【伊勢参宮 現代語訳】

言葉で申し上げるのも誠に畏れ多いことですが、伊勢には神様が  
お通りになるといって、神路山がございます。その山には白い木綿  
のような雲が取り巻いており、神殿は大きな宮柱が空に向かって  
聳えています。

伊勢神宮は、天皇がお治めになる国を、その祖神が守っておられ  
るのです。この壮大な宮殿では、高天原の祖神と天照大御神を  
お祀りしているので、人々が神々を仰ぎ見て参拝に来るのです。

神宮には五十鈴川という清流があり、襖ぎをした清々しい巫女が  
手振りも上品に神楽を舞いますよ。

香しい柵の葉を携え、美しい巫女が笏拍子を手に持って  
「大々神楽」を奉納するのです。

本当なんですよ、皆さんの頭に浮かんでくるでしょう？

昔の人々が寺社を巡拝する姿が。春風が菜の花に吹き漂へば、  
「胡蝶の夢」のように、夢なのか、現実なのか分らずに、参拝の旅  
に彷徨い出るものです。人生ってはないですかね。



宮川は、舟の渡し場がある所です。そこを渡れば大八車が行き交  
って、来るは、来るは、賑わってますよ。渡ってくる人は皆、  
菅の小笠に竹の杖を持った格好ですね。

大阪を出発したら、もう玉造だー。  
ヨイヤサ コレワイナ

笠を買うなら深江が名所だよ！  
ヤアトコセ ヨーイヤナ

アリアリヤ コレワイサ コノナンデモセ

伊勢はお湯がたつぷりで、湯が出る山は紅葉の山だー。  
ヨイヤサ コレワイナ

季節を問わず咲く「不断桜」は伊勢の白子が名所だよ。  
ヤアトコセ ヨーイヤナ

アリアリヤ コレワイサ コノナンデモセ

高倉山の参道にある、茶屋のあちちから歌声が聞こえますよ。  
この山道を下ったら、外宮の神前でまず祈りましょう。  
五穀豊穡が成就するという御神徳の恵みです。

足を引きずった歩みも、山田と宇治の「間の山」の所まで来ると  
軽くなるつてもんだ。その坂を上れば廓の町だもの。

間の山には「お杉」と「お玉」の二人が道端に小屋を掛けて、  
三味線をベンベラ ベンベラ チャンチャラチャンと、メツチャ

やたらに弾き立てているよ。十円、五十円、百円、と銭を投げると、  
パツと顔を振り向けて、

「綿の着物さん、紺の着物さん、馬の鞍の真ん中のお人ー、ハイ  
どーぞお願い、銭投げてよ、もうちよつと。その頬被りしてる  
旦那さん、パツチ股引のオジチャン、お江戸の女将さん、上方の旦那  
さん、神様にお参りする庭の、朝のお清めだつてばー。」

節を付ける「彪」を揃って、エイサラ、エイサラ、エイサラサ  
と音を出し、

「ソレ、羽織の殿様じゃ、カッツコイふどころ手の兄さんじゃ、  
やってチョーライ、銭、投げてつてばー」と、うるさいくらい。

傍で踊る子供は三味線や彪に合わせて手足を振っているのさ。



伊勢街道の古市まで来ると、奥の路地は皆さん大好きな伊勢音頭  
が聞こえる所だよ。琴に、胡弓に、三味線に合わせて、迫り出しが

軋みながら舞台上がってきたり、仕立てた舞台の欄干には咲き  
乱れた花で一杯、そう、美しい芸妓がいつぱいるよ。

鼻高々にお座りになる殿方は、猿田彦命かもしれないね。

古市から暫く行くと、宇治橋に着きます。  
参拝者が広い河原に投銭をするもんだから、それを揃ってやろう  
という網受の人が、橋の下に大勢いるよ。

お払町では左右に沢山の店が並んでいて、  
「お寄んなさい、お寄んなさい」と客引きの声が掛かる。  
「ライターに土鈴 餅花もありませ。奥様へのお土産には、白粉  
に裁縫用の物差し、子供さんには笙の笛が悦ばれませ」

めでたく伊勢神宮にお参りを済ませたら、朝熊岳金剛證寺に参拝  
し、五十鈴川の下流にある汐合橋まで行き、伊勢の浜荻で有名な

三津村を通過して二見浦を訪ねては如何でしょうか。  
美しい化粧箱を、また開けて二度見するように、二見が浦は美し  
く、伊勢神宮に参拝する前にここで襖ぎをする、清い渚が続い  
ています。二見が浦の海岸は心がなごみますが、夜明けの頃は、  
富士山が朝日とともに紅色の空に浮かびます。

絵巻にあるような松林からは風が吹き、それに添えて「ざざん、  
ざざん」と繰り返す鼓のような波音がしますよ。  
社殿には注連縄の下に鈴が吊され、シャンシャンと鳴らし  
ますが、二見が浦の夫婦岩には注連縄が張り渡され、それを拝む  
と、固い結び目のように、固く結ばれる夫婦なれると聞きます。

もう昔に書かれた出来事や、書物も多いでしょうが、こうした  
色んな事柄が沢山あることが、神の都として伊勢が栄えているの  
です。この歌で、その「祝い納め」のくぎりど致しましょう。

令和四年七月二十六日  
大中臣正比呂 拙訳

